

## 1. はじめに

サービス高齢者住宅街と非電化工房 in 那須高原と題した見学において、詳細は皆さんにお任せし、本稿では著者が感じたことを少し深掘りすることにする。扱う対象は、非電化工房、サービス付き高齢者住宅(以後、サ高住)、まちづくりひろば那須、旧朝日小学校校舎再利用の3点である。なお、建築的なことは建築の皆さんにおまかせして、ここでは生活模様に着目して論を進めるとした。

## 2. 非電化工房

見学して思ったことは2点。ひとつには、工房の主である藤村さんの思いが何処にあるのか、出版本に種々書いてあっても直に聞きたい。ふたつには、来訪者と共にどう生活を楽しんでおられるのか。

**(1)工房の概要**；敷地にはヨーロッパ風の家(アトリエ、写1)やいくつもの面白形態の小さな家「セナーハウス」(コンテナ改造、スロバールハウス、ツリーハウス、穀殻ハウス(写2)、コーヒーハウス他)がある。

工房が用意する事業メニューには図1にあるように、非電化製品制作、農業、カフェ、研修、WS、他がある。来訪者は、非電化のスピリットの学びのために、セナーハウスにて自由な生活をも楽しめるようになっている。

**(2)藤村さんの世界**；藤村さんは童話の世界がお好きな方からなのか、非電化による環境技術開発を専門として、自然の中で仲間と共に創意工夫により生活を楽しんでおられる。だからこそ、電力不使用という直ぐに原始の時代に戻らねばならないのかという人には、藤村氏が商業電力を利用しなくても「生活は楽しくできます」と実践されておられるのである。

**(3)工房において来訪者と共に営む生活**；来訪者は、生活メニューというか事業メニューにある数々のものを選択し、非電化の学びを自由な生活と共にセナーハウスに居し楽しむようになっている。各自は、宿泊して体で那須の気分や非電化の気分を味わおうということである。なお、セナーハウスは個性的なハウスとして、森の中に非電化の思考で創意工夫に満ち溢れて建っている。

**(4)工房における弟子**；全国から若者が工房で就労を希望して、何人もの弟子さんが住み込みで数年勤続されているという。彼らは卒業後には、各自出身地に帰って、非電化の考えを広めているという。

**(5)他**；些細なことかもしれないが、室外や室内においてはきれいに掃除されているとはいえそれでも蜘蛛の巣が至る所にあったという。おもしろい指摘。想像



図1 非電化工房、活動メニュー by 工房HP

写2 スモールハウス



するには、蜘蛛の巣そのものが気にならないのでは。それこそ自然ということなのかもしれない。藤村さんに聞いてみたい。

**(6)工房の事業**；工房開始は2000年。事業を列举する；  
a. 事業；非電化カフェ、有機農業、非電化住宅、研修、手仕事マルシェ、野外音楽ステージ、ワークショップ(月1回)、  
b. 非電化製品；エネルギー・水、非電化製品(粉摺り機、ガラス瓶洗浄機、除湿器、ボータグロボスト(生ゴミ分解)、コーヒー焙煎器、SVO発電所(植物油発電)、搾油器、冷蔵庫、オーファートライク、  
c. 他；見学会・セミナー、自律共生塾、住み込み弟子、書籍出版、工芸家具、食品加工

## 3. 那須まちづくり

**(1)**「那須まちづくり株式会社」(2018年)は、人々が生涯活躍できる街づくりを目的に設立され、地域活動拠点として那須町にある廃校となった朝日小学校跡地とその周辺を(仮受けてこれを)対象とし、「那須100年コミュニティ」の構想・実践を目指して活動している。

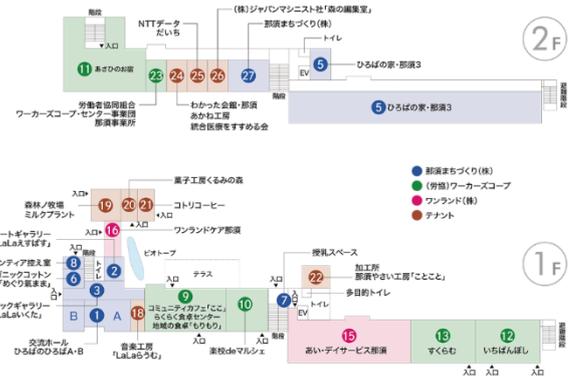


図3 再利用棟での各団体配置 by 那須まちづくりのHP

図2 まちづくり広場の全体図 by 那須まちづくりのHP  
**(2)**基本構想は、高齢者を中心にした多世代との交流を基に自立を目指す街づくりであり、そこにはサ高住域(ひろばの家・那須1)、介護施設からなる域(ひろばの家・那須2)と一般世代の沈滞住宅域(ひろばの家・那須3)、多機能性を備えたセンターとなる旧朝日小学校校舎再利用棟がある。これらにより、一大総合街の整備充実と運用が図られ、子どもから高齢者まで多世代の生活を尊重しながら共生が可能としている。各種施設を含めて当該街プランの配置を図2に示す。

**(3)**ももとの株式会社設置の源は、1999年の阪神淡路大震災の被災者支援を機に、神戸で在宅医療に取り組んできた医療チームが中心の「(一社)コミュニティネットワーク協会」にて、那須用に「100年コミュニティ」の理念を構想化したことにあるとのこと。少子高齢化時代をにらんだプランであるという。

#### 4. 再利用棟 (図3、写4~6、)

**(1)那須まちづくりひろば**；廃校小学校校舎は地域の拠点であり総合施設としてリニューアルされた(広場や再利用棟と称す)。ここには、地域に根差す事業体があたたかもオフィシャルのように居を構えている。地域活動に合致すれば一般株式会社もちろん入居OKである。

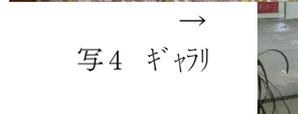
##### (2)入居の地域活動の拠点

地域活動の拠点。関連の諸団体の事務所、図書室、ホール、リースール、パン工房など地域事業体、宿泊所がある。全国何処でも、廃校校舎には地域活性化の一環として種々アイデアのもと再利用が図られているが、那須のように関連団体を多く結集したものは全国に珍しい。以下に入居を系統別に列挙；

- 高齢者中心に多世代まで；交流広場、アートギャラリー、ブックギャラリー、ひろばの家・那須1、多世代住宅ひろばの家・那須3、オガニックコットン、那須まちづくり、他
- パブリックスペース充実；コミュニティフェ、食卓、マルシェ、児童発達支援、生活保護、
- 豊かな生活支援の介護事業者；ひろばの家・那須2、デｲサービス、医療従事者プラス住宅(予定)、医療、音楽工房、シワ、菓子工房、コヒ、野菜工房、



写3 こどもの場



写4 ギャラリー



写5 会社の執務室



写6 再利用棟 (まちづくり広場)

**(3)総合棟のフグランスフリー(無香料)運動**；再利用棟では有香料一切使用禁止。理由は柔軟剤、合成洗剤、消臭剤などの香料(添加剤)による健康被害を防ぐためである。

#### 5. サ高住(ひろばの家、那須) (写7)

サ高住について、入居者の生活模様について関心がある。隣近所との会話、就労・ボランティア、就労先、世代間交流、老若(新旧、新古)は如何に。以下に記す。

**(1)地域内コミュニケーション**；向三軒両隣といった頃のコミュニケーションが今も期待されてるかと言えば必ずしもそうではなく、そこそこというのが一般的なようである。那須においては、再利用棟が中心的役割を担い、サ高

住の各位が参加する事により、自然と関係性が築かれていくという。そのくらいの緩さでのコミュニケーションが、気張らず、負担にならず、そして軽く楽しめることになるという。

## (2)サ高住の方々の自立状況

高齢者向けに就業やコミュニケーションが図られている。区域内にはサ高住(那須1,2域)があり、若者や一般向けの居住棟(那須3域)があり、区域全体は緩いきずなのある街の様相を呈し、かつ街の広場が機能している。

就労については、区域外に勤務もあれば、街の広場でのボランティアや就業の方々もおられ、その意味でも自立生活が営まれているといえる。確かに、高齢者には社会との繋がり、多世代との交流や高齢者の働きがい自立性として図られている。

**(3)介護の歴史**；昔は各家庭にて高齢者介護が主であったが、時代が下り介護問題が検討されるようになってからは、老人が集積され、きめ細かな介護が可となった。その後、高齢者施設は高齢者隔離の面を払しょくするために、高齢期と幼少期をだきあわせる、富山型デ・イビスの考えと似たような考えも出て、高齢者と多世代の接触が図られるようになってきた。その意味では那須のサ高住の区域では高齢者中心とした一般世代との交流が問題を一気に解決したことになるといえる。今後は、昔のような各家庭での高齢者看護の良さを今日的に取り込み、何とかブロック単位(広がった区域)でも老若を混在するようになるのではと思う。

**(4)行政の対応**；行政における福祉介護系の人員削減はどこ地域でも大いに問題となっている。那須でもそうという。そんな行政は、むしろ民間を応援するようになってきている。そういえば、行政は子ども食堂でも本来は公の仕事を民に任せ、民を支援するということができなくなっているように、福祉についてもそんな様相が進んでいるという。人によっては、民に反対する行政でなければ、「応援いただくだけで結構。口出ししないでね」といったことになり始めているともいう。ここでは事の是非を論ずるつもりはなく、こうした実情を皆さん知って欲しい、と関係者が言っておられたことを紹介するとどめておく。

**(5)既住者の対応**；那須町は広いので、那須まちづくり広場の存在がなかなか知られていないという。これに対し広場に近い地域では、人口が増え、既住と移住の交わりもあって、既住者は広場に一目おくようになってきたという。

## 5'. サ高住、(ゆいまーる那須、(写8)

今一つの例。街づくり広場と同系列のサ高住である「ゆいまーる那須」では棟を円環状配置にして、居住者同士のコミュニケーションの促進を図っている。

また区域中心にセンターがあり、町内会のような雰囲気ので快適な役割も演じているという。なお、居住棟の一



↑写7 サ高住、

ひろばの家・那須1

写8 サ高住、ゆいまーる

by ゆいまーる那須HP →



角には、何時でもすぐに本に親しめるように、図書室が居住棟に隣接して設置されている。

## 6. まとめ

今回の那須高原地域での諸施設見学では、非電化工房と那須まちづくりひろばの二点に絞り、なぜこれらが脚光を浴び、全国に範となりうるのかを感覚的に検討してみた。以下に特徴的なことを列挙する。

**(1)非電化工房**；非電化工房では、今日的住みづらは効率社会の弊害として非電力に着目して自然のままに楽しく生きましようの考えにより、「自然と創意工夫と仲間」を掲げ、生活が実践されている。ここで学んだ若者や壮年者はあちこちに戻って非電化生活の啓発にいそしんでおられるという。

**(2)那須まちづくりひろば**；株式会社「那須まちづくりひろば」により100年先をも見越して自立型の高齢者を中心に地域とつながり世代を超えた街づくりが進められ、廃校校舎再利用棟やサ高住ならびに介護施設が造営・運営されている。この事業は、周辺地域にて一目置かれて、行政からの応援をうけているという。

**(3)サ高住の方々の自立状況**；高齢者住宅における目玉は入居者の自立的な生活である。コミュニケーションについては、区域内には若者や一般向けの居住棟もあり、再利用棟の働きにもよって、緩い繋がりある街がつけられている。また就業については、区域の内外にて正規やボランティアの形態がある。

**(4)再利用棟**；再利用棟には、地域活動に関係するNPO、株式会社、各種団体、等が事務所を構え、またフリースクールや子どもの居場所などもあり、これらがさながら多機能共同体の核として住民サービスに供している。

▲感想；現場にて種々お話を聞いたこと、那須にて宿泊し、那須の気風を体感で聞いたこと、何にも代えがたい体験でした。▲謝辞；本稿では、現地見学や電話取材により、ひろばの方、群馬支部の新井さん、他皆様には大変世話になりました。記して謝意を表します。